

平成29年度

公立大学法人奈良県立大学の業務の実績に関する評価結果

平成30年8月

奈良県公立大学法人奈良県立大学評価委員会

## 目次

全体評価	1
項目別評価	
1 教育	3
2 研究	7
3 地域貢献	9
4 国際交流	13
5 法人運営	15

奈良県公立大学法人奈良県立大学評価委員会は、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、公立大学法人奈良県立大学の業務実績について以下のとおり評価を行った。

### 【平成29年度評価】

#### 「全体評価」

全体評価は、項目別評価及び法人の自己評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進捗状況全体について、記述式により評価を実施。

#### 「項目別評価」

##### 1. 大項目評価

法人の業務実績報告書の検証を踏まえ、大項目別に進捗状況・成果を次の5段階で評定。

- V 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある  
(評価委員会が特に認める場合)
- IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる  
(評価委員会の小項目別評価が全てSまたはA)
- III 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる  
(評価委員会の小項目別評価のSまたはAの割合が9割以上)
- II 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている  
(評価委員会の小項目別評価のSまたはAの割合が9割未満)
- I 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある  
(評価委員会が特に認める場合)

※上記の判断基準は目安であり、法人の諸事情等を勘案し、総合的に判断する。

##### 2. 小項目評価

法人の業務実績報告書の検証を踏まえ、小項目別に進捗状況・成果を次の4段階で評定。

- S 年度計画を上回って実施している
- A 年度計画を十分に実施している(達成度がおおむね90%以上)
- B 年度計画を十分には実施していない  
(達成度がおおむね60%以上90%未満)
- C 年度計画を大幅に下回っている。又は、年度計画を実施していない  
(達成度がおおむね60%未満)

## 全体評価

---

「地域から学び、地域に貢献する」ことをモットーに、さらなる教育の質の向上と優れた地域人材の養成を目指す公立大学法人奈良県立大学においては、平成27年度から平成32年度までが県の示した第1期中期目標期間であり、「教育」、「研究」、「地域貢献」、「国際交流」、「法人運営」の5つの分野とそれぞれの項目について具体的な成果目標を掲げている。

奈良県立大学ではこれらを達成するための「中期計画」（平成27年度から平成32年度）と各年度の計画を策定することとしており、平成29年度計画の実施状況について、奈良県公立大学法人奈良県立大学評価委員会において以下のとおり評価を行った。

### 1. 平成29年度評価結果及び判断理由

公立大学法人奈良県立大学の平成29年度計画のすべての項目の業務実績について、「公立大学法人奈良県立大学の各事業年度における業務の実績についての評価に係る実施要領」に基づき評価を行った。

その結果、中期目標の大項目5項目中、「研究」、「国際交流」については、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」、また、「教育」、「地域貢献」及び「法人運営」については、「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と評定した。

以上のことを踏まえ、平成29年度の業務実績全体としては、「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と認められる。

### 2. 平成29年度評価のうち、注目される取組

- ・平成29年度計画「リベラルアーツ科目の増加について検討する。」に対して、教養講義Ⅴを新たに開講したことにより、リベラルアーツ科目が26科目となった。（年度連番6）
- ・平成29年度計画「県内高校の訪問や模擬講義を実施すること等により、県内高校生の受験者の増加に努める。」に対して、学長・事務局長による県内高校訪問を集中的に実施した（7、8、9月、35校）。また、県内高校5校（登美ヶ丘、桜井、香芝、二階堂、西の京）での模擬講義、ガイダンスを実施するとともに、オープンキャンパス、大学説明会を実施し、入試広報に努めた。（年度連番15）
- ・平成29年度計画「初学年次からキャリア教育を実施する。」に対して、1年生を対象に「キャリアデザインⅠ」を開講した。また、就職委員会で、初年次からのキャリア教育プログラムを単位化するための講座案を作成し、平成30年度からの講座単位化を決定した。（年度連番21）
- ・平成29年度計画「蔵書の充実や図書館のPRに努め、図書貸出冊数の増加を図る。」に対して、教員による質の高い選書や図書・研究委員会による寄贈図書の選書により、1,771冊の図書を受け入れるとともに、英語多読図書コーナーの充実により貸出冊数が大幅に増加した。また、学生の情報リテラシー向上を目的として、学生団体との連携イベントによる図書館のPRや国立国会図書館関西館職員を講師としたガイダンスを実施した。（年度連番42）
- ・平成29年度計画「地（知）の拠点整備事業補助金を活用した競争的研究資金（地域志向教育研究助成）を実施する。学長裁量による競争的研究資金を実施する。」に対して、地（知）の拠点整備事業補助金を活用した競争的研究資金（地域志向教育研究助成）を4件、学長裁量による競争的研究費1件を採択するなど、優秀な研究に対する支援を実施した。

(年度連番 48)

- ・平成 29 年度計画「奈良県立大学シニアカレッジを実施、受講生への意見聴取等に基づき、平成 30 年度以降の充実方策について検討する。」に対して、奈良県立大学シニアカレッジを本校（県立大学）及び中南和分校（桜井市まほろばセンター、県社会福祉総合センター）で開催し、のべ 817 人のシニア世代が受講した。また、受講希望者の増加に対応するため、新たに平成 30 年度から西和分校（王寺町地域交流センター）の開設を決定した。（年度連番 66）
- ・平成 29 年度計画「地域創造データベースのコンテンツの充実を図る。」に対して、附属図書館に設置した地域創造データベースコーナーを学外に公開するとともに、追加コンテンツを随時ホームページにアップした。これにより、地域創造データベースの追加件数が 74 件となり、オンラインデータ合計数が 435 件となった。（年度連番 69）
- ・平成 29 年度計画「海外大学との学生交流協定（授業料免除を含む）の締結を進める。」に対して、オーストラリアの大学 2 校（サザンクロス大学、ウエスタンシドニー大学）及びアメリカ合衆国のポートランド州立大学とそれぞれ学術交流協定を締結するとともに、テキサス A&M 大学キングスビル校と交換留学生に関する覚書を締結した。（年度連番 92）

### 3. 評価委員会の意見等

- ・平成 26 年度からの新カリキュラムにおいて必修化したフィールドワークについて、単位取得件数は順調に増加している。今後は、フィールドワークの質や満足度等についても評価できるように改善していくことが望ましい。
- ・奈良の魅力伝える科目として「文学（奈良と文学）」、「教養講座Ⅰ（やまとまほろば学）」を実施したことについて、これらの科目には奈良県立大学の特色が良く出ているので、更なる取組の拡大を期待する。
- ・施設整備については、一部建物が耐震化に対応しておらず、またバリアフリー化も不十分であるので、平成 28 年度に策定された「奈良県立大学施設整備基本計画」に沿って、県と県立大学が連携し、適宜検討、調整を行いながら、着実に進めていくことが必要である。
- ・附属図書館に設置した地域創造データベースコーナーに教員の論文や様々な活動報告を意欲的に掲載し、学外に公開していることについて、アクセス件数が増加し、大学の研究成果が地域振興に資する知恵や情報の発信手段として役立っていることから、今後もこのような取組の継続を期待する。
- ・奈良県立大学シニアカレッジについて、受講者ニーズに応じた分校開設の取組は特に評価されるものである。
- ・「学生アンケート」において、教育内容に不満である学生の割合が高いことから、不満とされる内容を分析し、改善に努める必要がある。
- ・中期計画の進捗状況が的確に把握できるような評価指標を設定するとともに、進捗状況に合わせた見直しも行う必要がある。

## 項目別評価

### 1 教育

大項目評価	小項目評価		中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
<b>Ⅲ</b>	S	3	
	A	34	
	B	4(1)	
	C	0	
	合計	41(1)	

年度計画の記載41項目中、37項目(90.2%)が、「S」または「A」の評価

※( )内は再掲の項目数(外数)

#### 小項目評価

##### 【教育内容の充実】

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(1)	対話型少人数教育(学習コモンズシステム)の導入・充実	1	自主的に学び成長する精神を身につけた地域に貢献できるすぐれた人材の育成	2～4年生にコモンズゼミを導入する。	A
		2		コモンズ連絡会議を定期的に開催し、情報交換及び教育手法への活用を行う。	A
(2)	フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実	3	実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成	市町村等との連携協定の締結を進める。	A
		4		各コモンズ教員と地域交流センターによりフィールドワーク先の開拓を進める。	A
		5		2～4年生にフィールドワークを導入する。	A
(3)	リベラルアーツ教育の充実	6	社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成	リベラルアーツ科目の増加について検討する。	S
		7		・東アジアサマースクールを開催するとともに、教養講義Ⅱ(東アジアと日本)として単位化する。 ・学外の著名な有識者・実務者等を外部講師として招聘することを検討する。	A
		8		学生による授業評価を実施し、リベラルアーツ教育の効果の把握及び検証を行う。	A
(4)	高度な語学教育の提供	9	海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成	英語アドバンスⅠ～Ⅵを開講して、観光英語(Ⅰ・Ⅱ)、国際ビジネス英語(Ⅲ・Ⅳ)、TOEFL受験英語(V・Ⅵ)に関する授業を行う。	A
		10		ネイティブ講師による会話中心の英語の授業及び英語アドバンスによる観光英語・ビジネス英語の授業により実践的英語教育を実施する。	A
		11		TOEFL受験に対する支援を実施する。	A

【学生への支援】

小項目	連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(5) 意欲ある学生の確保	12	大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上	入試委員会及び広報委員会で効率的、効果的な学生募集の方法を継続的に検討する。	A
	13		大学改革推進委員会を設置し、入試制度の改善について検討する。	A
	14		大学案内やキャンパスジャーナルの発行、高校訪問等による入試広報を実施する。	A
	15		県内高校の訪問や模擬講義を実施すること等により、県内高校生の受験者の増加に努める。	A
	16		優秀な成績を修めた学生に対して給付型奨学金を給付する。	A
(6) 教育内容の評価（教員の評価とカリキュラムの評価）	17	学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ	学生による授業評価を実施し、結果を活用して授業の質の向上を図る。	A
	18		コモンズ連絡会議を定期的に開催し、教育内容の充実について検討する。	A
	19		教務委員会において学生の履修状況、授業評価を考慮して平成30年度のカリキュラムを検討する。	A
	20		FD研修会を実施して、教員の教育力の向上を図る。	A
(7) 学生のキャリアサポートの充実	21	高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立	初学年次からキャリア教育を実施する。	S
	22		就活相談、履歴書作成や面接のサポート等就活生に対する細やかなサポートを実施する	A
	23		4年生のコモンズゼミ担当教員とキャリアサポート室が一体となって就職サポートを行う。	A
	24		4年生のコモンズゼミ担当教員が学生の就職活動状況の把握に努める。	A
	25		学生アンケートを実施し、就職サポートに関する学生の要望を把握する。	A
	26		離職率等の追跡調査を実施する。	A
	27		リカレント教育中心の相談員の配備について検討する。	A
	28		卒業生の就職先との連携方法について検討する。	A
	29		・ハローワークやジョブカフェと連携して、就職相談等のサポートを充実する。 ・県内企業でのインターンシップを実施する。	A
	30		就職セミナーの実施、就職相談、就職情報の提供など学生の就職支援を継続的に実施する。	A
	31		離職率等の追跡調査とあわせて、就職先企業の情報を収集する。	A

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(8)	学生生活へのサポート	32	学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す	メンタルカウンセリングを月2回実施するほか、学生相談体制の充実について検討する。	A
		33		学務システムの平成30年度の運用開始に向け、システムを導入する。	A
		34		・教員が学生の質問や相談を受けるオフィスアワーを実施する。 ・学生アンケートを実施し、学生の意見を聴取する。	A
		35		・学生共用スペースとして食堂及び自習室を提供する。 ・施設整備基本設計及び実施設計に向け、学生共用スペースの確保を検討する。	B

### 【教育を支える施設整備】

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(9)	学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備	36	教員と学生が共に学べるキャンパスの整備	施設整備基本設計及び実施設計に向け、対話型少人数教育(学習コモンズシステム)に対応した教室の整備について検討する。	B
		37		施設整備基本設計及び実施設計に向け、ラーニングコモンズの整備について検討する。	B
(10)	図書館機能の充実・強化	38	高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備	地域創造学関連蔵書の充実を図る。	A
		39		施設整備基本設計及び実施設計に向け、メディアセンターの整備について検討する。	B
		40		メディアセンターで導入すべきコンテンツを調査する。	A
(11)	図書館機能の充実・強化	41		施設整備基本設計及び実施設計に向け、ラーニングコモンズの整備について検討する(37の再掲)。	B
		42		蔵書の充実や図書館のPRに努め、図書貸出冊数の増加を図る。	S

## 注目される取組

- 平成29年度計画「リベラルアーツ科目の増加について検討する。」に対して、教養講義Vを新たに開講したことにより、リベラルアーツ科目が26科目となった。(年度連番6)
- 平成29年度計画「県内高校の訪問や模擬講義を実施すること等により、県内高校生の受験者の増加に努める。」に対して、学長・事務局長による県内高校訪問を集中的に実施した(7、8、9月、35校)。また、県内高校5校(登美ヶ丘、桜井、香芝、二階堂、西の京)での模擬講義、ガイダンスを実施するとともに、オープンキャンパス、大学説明会を実施し、入試広報に努めた。(年度連番15)
- 平成29年度計画「初学年次からキャリア教育を実施する。」に対して、1年生を対象に「キャリアデザインI」を開講した。また、就職委員会で、初年次からのキャリア教育プログラムを単位化するための講座案を作成し、平成30年度からの講座単位化を決定した。(年度連番21)
- 平成29年度計画「リカレント教育センターの相談員の配置について検討する。」に対して、平成30年度からのリカレント教育センターの相談員を兼任するキャリア教育担当教員の配置が措置された。(年度連番27)
- 平成29年度計画「蔵書の充実や図書館のPRに努め、図書貸出冊数の増加を図る。」に対して、教員による質の高い選書や図書・研究委員会による寄贈図書の選書により、1,771冊の図書を受け入れるとともに、英語多読図書コーナーの充実により貸出冊数が大幅に増加した。また、学生の情報リテラシー向上を目的として、学生団体との連携イベントなどによる図書館のPRや国立国会図書館関西館職員を講師としたガイダンスを実施した。(年度連番42)

## 課題

- 平成29年度計画「学生共用スペースとして食堂及び自習室を提供する。施設整備基本設計及び実施設計に向け、学生共用スペースの確保を検討する。」「施設整備基本設計及び実施設計に向け、対話型少人数教育(学習コモンズシステム)に対応した教室の整備について検討する。」「施設整備基本設計及び実施設計に向け、ラーニングコモンズの整備について検討する。」「施設整備基本設計及び実施設計に向け、メディアセンターの整備について検討する。」に対して、各施設の基本・実施設計を実施していくためには、「奈良県立大学施設整備基本構想」(平成25年度策定)で検討された項目に加え、基本・実施設計業務のための条件の整理が必要であり、県立大学の施設整備検討委員会と連携の下、県において「奈良県立大学施設整備基本計画」を平成28年度に策定した。平成29年度は、コモンズ棟の基本設計を実施したところであり、今後はこの施設整備基本計画に沿って、県と県立大学が連携し、着実に計画を進めていくことが必要である。(年度連番35、36、37、39、41)

## 項目別評価

### 2 研究

大項目評価	小項目評価		中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
<b>IV</b>	S	0	
	A	10(1)	
	B	0	
	C	0	
	合計	10(1)	

年度計画の記載10項目中、すべてが「A」の評価

※( )内は再掲の項目数(外数)

#### 小項目評価

小項目	連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(1) 研究の適切な成果評価	43	社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する	科学研究費補助金の積極的な確保に向け、申請者へのインセンティブの付与等を検討する。	A
	44		科学研究費補助金の申請支援のため、教員に対する科学研究費補助金申請講習会を実施する。	A
	45		・地域創造学部における客員研究員招聘について検討する。 ・ユーラシア研究センターにおいて客員研究員を委嘱する。	A
	46		フェローシップ制度の構築について検討する。	A
	47		優れた外部研究者に対する表彰制度の創設について検討する。	A
(2) 課題解決に寄与する研究活動の推進	48	研究成果を社会に発表し、社会の問題解決に貢献する	・地(知)の拠点整備事業補助金を活用した競争的研究資金(地域志向教育研究助成)を実施する。 ・学長裁量による競争的研究資金を実施する。	A
	49		研究季報(年4回)の発行、研究論文の地域創造データベース等への掲載、県民向けの講座等の開催により、研究成果を広く地域に情報発信する。	A
	50		ユーラシア研究センターにおいて奈良とユーラシアに関する研究活動を継続する。	A
(3) 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進	51	奈良とユーラシアに関する研究活動を推進するとともに、その研究成果を県民に還元する	ユーラシア研究センターにおいて奈良とユーラシアに関する研究活動を継続する(50の再掲)。	A
	52		ユーラシア研究センターの研究成果をフォーラム等の開催、情報誌の発行等を通じて情報発信する。	A
	53		奈良県と共催で東アジアサマースクールを実施する。	A

#### 注目される取組

- 平成29年度計画「地域創造学部における客員研究員招聘について検討する。ユーラシア研究センターにおいて客員研究員を委嘱する。」に対し、ユーラシア研究センターにおいて主催する3つの研究会（近世奈良を語る会、谷三山研究会、近世・近代の思想研究会）に、17名の客員研究員を委嘱した。（年度連番45）
- 平成29年度計画「地（知）の拠点整備事業補助金を活用した競争的研究資金（地域志向教育研究助成）を実施する。学長裁量による競争的研究資金を実施する。」に対して、地（知）の拠点整備事業補助金を活用した競争的研究資金（地域志向教育研究助成）を4件、学長裁量による競争的研究費1件を採択するなど、優秀な研究に対する支援を実施した。（年度連番48）
- 平成29年度計画「ユーラシア研究センターの研究結果をフォーラム等の開催、情報誌の発行等を通じて情報発信する。」に対して、平成29年10月14日にユーラシア研究フォーラムを、平成29年12月3日に谷三山没後150年記念フォーラムを開催し、延べ350人が参加するとともに、情報誌「EURO—NARASIA Q」第8～10号を発行した。（年度連番52）
- 平成29年度計画「奈良県と共催で東アジア・サマースクールを実施する。」に対して、平成29年8月17日～8月29日にかけて、東アジア・サマースクール2017を開催した。東アジアをはじめ多くの国や地域からの参加があり、受講生が過去最多となった。（年度連番53）

## 項目別評価

### 3 地域貢献

大項目評価	小項目評価		中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
Ⅲ	S	2	
	A	32(3)	
	B	1	
	C	0	
	合計	35(3)	

年度計画の記載35項目中、34項目(97.1%)が、「A」の評価

※( )内は再掲の項目数(外数)

#### 小項目評価

##### 【教育関連】

小項目	連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(1)	幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成	社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成	キャリア育成プログラムを開発、実施する。	A
			リカレント教育中心の相談員の配備について検討する(27の再掲)。	A
(2)	奈良の魅力を全国に発信できる人材の育成	県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力を全国に発信する	「教養講義Ⅰ(大和まほろば学)」「文学(奈良と文学)」など奈良の魅力を学生に伝える授業科目を実施する。	A
			奈良県内におけるフィールドワーク先の開拓を進める。	A
			キャンパスジャーナルの配布等卒業生に対して継続的に情報を発信する。	A
			同窓会が開催するホームカミングデーに協力するなど、卒業後のネットワーク構築を進める。	A
(3)	地域の学校(大学・高等学校)間の連携による地域貢献	地域の学校間の連携を通じて、大学の使命である地域づくりへの貢献を実現する	高等学校との連携事業により、高校での模擬授業等を実施する。	A
(4)	県民に対する生涯学習の機会の提供	大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する	県民(市民)講座を年3回以上開催する。	A
			・受講者へのアンケート調査等により県民のニーズに応じた講座を開催する。 ・ホームページ等を活用して開催情報の発信を強化する。	A
			県民向けに協働プロジェクトの成果等を発表するセミナー、研究会、シンポジウム等を開催する。	A
			教員による県民の希望に応じた出前講義を実施する。	A
			大学の講義科目へ科目等履修生を積極的に受け入れる。	A
			奈良県立大学シニアカレッジを実施、受講生への意見聴取等に基づき、平成30年度以降の充実方策について検討する。	S
			奈良県と共催で東アジアサマースクールを実施する(53の再掲)。	A

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(5)	社会人の学び直しの機会の提供	68	社会人に大学での学び直す機会を提供し、最新の研究成果を社会で役立ててもらおう	先進事例の調査結果等を踏まえ、社会人向けの夜間講座の基本方針の策定に着手する。	A
(6)	地域創造データベースの構築、活用及び提供	69	研究成果をデータベース化し、地域で役立つ知恵と情報を発信する	地域創造データベースのコンテンツの充実を図る。	S
		70		地域創造データベースの広報に努め、県民の利用を促進する。	A

### 【研究関連】

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(7)	大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進	71	市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として相応しい機能を備えた大学となる	市町村等との連携協定の締結を進める(3の再掲)。	A
		72		市町村等における課題を解決するため、協働プロジェクトを実施する。	A
		73		地(知)の拠点整備事業の内部評価及び外部評価を実施し、協働プロジェクトの質を検証する。	A
		74		コモンズゼミにおけるPBL教育、フィールドワーク等により学生の実践的な課題解決能力を育成する。	A
(8)	研究成果等の地域への還元	75	地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる	・地(知)の拠点整備事業補助金を活用した競争的研究資金(地域志向教育研究助成)を実施する。 ・学長裁量による競争的研究資金を実施する。(48の再掲)	A
		76		・地(知)の拠点整備事業補助金を活用した競争的研究資金(地域志向教育研究助成)を実施する。 ・学長裁量による競争的研究資金を実施する。(48の再掲)	A
		77		研究季報(年4回)の発行、研究論文の地域創造データベース等の掲載、県民向けの講座等の開催により、研究成果を広く地域に情報発信する(49の再掲)。	A
		78		地(知)の拠点整備事業広報誌を継続的に発行する。	A
		79		研究季報(年4回)の発行、研究論文の地域創造データベース等の掲載、県民向けの講座等の開催により、研究成果を広く地域に情報発信する(49の再掲)。	A

【地域交流関連】

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(9)	学生の地域貢献	80	学生が大学での研究活動等を通じて地域に貢献する	地域交流センターにおいてフィールドワーク先の開拓や学生とのマッチングを行う等学生の研究活動に対する支援体制を充実する。	A
		81		地域交流センターにおいて、学生のボランティア活動を支援する。	A
(10)	奈良県のニーズに対応した地域貢献活動	82	大学と地域が連携を強化し、地域のニーズに対応した課題解決に取り組む	市町村等における課題を解決するため、協働プロジェクトを実施する(72の再掲)。	A
		83		県民向けに協働プロジェクトの成果等を発表するセミナー、研究会、シンポジウム等を開催する(63の再掲)。	A
		84		県内企業との連携協定の締結を進める。	A
(11)	地域交流拠点の活用(協働サロン等)	85	地域交流拠点を活用して、地域における課題に取り組む	協働サロン及び地域サテライトを継続的に開放する。	A
		86		大学ホームページや各種メディアを活用して協働サロン及び地域サテライトをPRする。	A
(12)	地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)	87	地域交流のできる施設の整備及び県民への開放	・地域交流棟を活用した活動事業内容を充実する。 ・施設整備基本設計及び実施設計に向け、地域に開かれた施設の整備について検討する。	B
		88		大学ホームページや各種メディアを活用して大学の施設及び活動事業をPRする。	A
		89		県民(市民)講座を年3回以上開催する(61の再掲)。	A
		90		県民開放施設を活用して県民向けイベントを開催する。	A
		91		県民開放施設を貸し出し、地域との交流を深める。	A

## 注目される取組

- 平成29年度計画「リカレント教育中心の相談員の配置について検討する。」に対して、平成30年度からのリカレント教育中心の相談員を兼任するキャリア教育担当教員の配置が措置された。(年度連番55)
- 平成29年度計画「奈良県立大学シニアカレッジを実施、受講生への意見聴取等に基づき、平成30年度以降の充実方策について検討する。」に対して、奈良県立大学シニアカレッジを本校(県立大学)及び中南和分校(桜井市まほろばセンター、県社会福祉総合センター)で開催し、のべ817人のシニア世代が受講した。また、受講希望者の増加に対応するため、新たに平成30年度から西和分校(王寺町地域交流センター)の開設を決定した。(年度連番66)
- 平成29年度計画「地域創造データベースのコンテンツの充実を図る。」に対して、附属図書館に設置した地域創造データベースコーナーを学外に公開するとともに、追加コンテンツを随時ホームページにアップした。これにより、地域創造データベースの追加件数が74件となり、オンラインデータ合計数が435件となった。(年度連番69)

## 課題

- 平成29年度計画「地域交流棟を活用した活動事業内容を充実する。施設整備基本設計及び実施設計に向け、地域に開かれた施設の整備について検討する。」に対して、地域交流棟にて、奈良県立大学シニアカレッジ(通年)、東アジア・サマースクール(8月)、国際フォーラム(10月)などを開催したが、地域交流棟3階の一部が未整備となっている。平成28年度に策定した「奈良県立大学施設整備基本計画」に沿って、県と県立大学が連携し、適時検討、調整を行いながら、計画を進めていくことが必要である。(年度連番87)

## 項目別評価

### 4 国際交流

大項目評価	小項目評価		中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
<b>IV</b>	S	1	
	A	7(1)	
	B	0	
	C	0	
	合計	8(1)	

※( )内は再掲の項目数(外数)

#### 小項目評価

小項目	連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(1) 学生の国際交流	92	学生レベルの国際交流を充実する	海外大学との学生交流協定(授業料免除を含む)の締結を進める。	<b>S</b>
	93		・留学生宿舎として民間住宅を借り上げ、家賃を補助する。 ・教員と国際交流室が留学生に対する相談を実施するとともに、学生チューターを配置する。	<b>A</b>
	94		ネイティブ講師による会話中心の英語の授業及び英語アドバンスによる観光英語・ビジネス英語の授業により実践的英語教育を実施する(10の再掲)。	<b>A</b>
	95		・留学相談、情報提供等本学学生の海外留学を支援する。 ・本学学生の海外留学に対して助成する。	<b>A</b>
	96		東アジアサマースクールを開催するとともに、教養講義Ⅱ(東アジアと日本)として単位化する(7の再掲)。	<b>A</b>
(2) 教員の国際交流	97	大学教員と海外の研究者との交流による研究水準の向上	海外大学との学術交流協定の締結を進める。	<b>A</b>
	98		海外大学との研究交流等国際的な学術研究活動に取り組む。	<b>A</b>
(3) 国際交流組織体制の整備	99	海外大学との連携を深め、教育及び学術研究の交流を図る	ホームページを多言語化し、海外に向けて情報発信する。	<b>A</b>
	100		海外大学との研究交流等国際的な学術研究活動に取り組む(98の再掲)。	<b>A</b>

#### 注目される取組

- 平成29年度計画「海外大学との学生交流協定（授業料免除を含む）の締結を進める。」に対して、オーストラリアの大学2校（サザンクロス大学、ウエスタンシドニー大学）及びアメリカ合衆国のポートランド州立大学とそれぞれ学術交流協定を締結するとともに、テキサスA&M大学キングスビル校と交換留学生に関する覚書を締結した。（年度連番92）
- 平成29年度計画「海外大学との研究交流等国際的な学術研究活動に取り組む。」に対して、奈良県立大学国際セミナーとして、上海師範大学と連携し、「アジアの国際観光交流について」（10月）、韓国の現代アーティストと連携し「船／橋わたす」（10月）等、国際的な学術研究における交流活動を実施した。（年度連番98）

## 項目別評価

### 5 法人運営

大項目評価	小項目評価		中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
<b>Ⅲ</b>	S	0	
	A	17(2)	
	B	1	
	C	0	
	合計	18(2)	

年度計画の記載18項目中、17項目(94.4%)が、「A」の評価

※()内は再掲の項目数(外数)

#### 小項目評価

#### 【組織運営と人事管理の改革】

小項目	連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(1) ガバナンス体制の充実強化	101	理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人運営を図る	(平成27年度に完了) ・SD研修会を実施して、職員の資質能力の向上を図る。	A
	102		・理事会、経営審議会及び教育研究審議会を開催して法人の重要事項を審議する。 ・機動的な法人運営を行うための調整・情報交換組織として運営調整会議を毎月開催する。	A
	103		(平成27年度に完了)	-
(2) 同窓会・後援会との連携	104	卒業生や保護者の大学の活動への理解を深め、協力を得る	同窓会が開催するホームカミングデーに協力するなど、同窓会・後援会との連携・交流を強化する。	A
	105		同窓会・後援会と教職員・学生の定期的な意見交換・交流を実施する。	A
	106		同窓会・後援会と教職員・学生の定期的な意見交換・交流を実施する(105の再掲)。	A
(3) コンプライアンスの確保	107	公立大学法人としてコンプライアンスの向上を図る	(平成27年度に完了) ・コンプライアンスの向上を図るため、行動規範を策定する。	A
	108		(平成27年度に完了)	-
(4) 危機管理体制の整備	109	公立大学法人として必要な危機管理体制の整備を図る	危機管理計画(防災計画を含む)を策定する。	B
	110		危機管理体制を整備する。	A

#### 【健全な財務の構築と維持】

小項目	連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(5) 収入の確保	111	中期目標期間中の安定的な財務状況の維持	理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定を行う。	A
	112		科学研究費補助金、市町村等からの受託事業など独自財源の確保に努める。	A

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(6)	経費の節減	113	中期目標期間中の安定的な財務状況の維持	理事会・経営審議会により継続的な法人の経営状況の把握に努め、迅速かつ的確に方針決定を行う(111の再掲)。	A
		114		アウトソーシングの導入など経費抑制策について検討する。	A
(7)	業務の効率化	115	効率的・効果的な大学経営に努める	・人事給与システム、財務会計システム及び事務系基盤システムを運用し、法人業務の効率化を図る。 ・旅費システムを導入・運用し、法人業務の効率化を図る。 ・学務システムの平成30年度の運用開始に向け、システムを導入する(33の再掲)。	A

### 【法人の自己点検・評価及び情報公開の推進】

小項目		連番	中期目標(期待する効果)	平成29年度 年度計画	評価
(8)	法人の自己点検・評価	116	県民に信頼される法人運営を行う	計画・評価委員会で平成28年度及び平成29年度年度計画の自己評価を行う。	A
		117		大学機関別認証評価を受審する。	A
(9)	法人情報の公開の推進	118	県民に信頼される法人運営を行う	・法人ホームページを随時更新するとともに、広報委員会で掲載内容の見直し、検討を行う。 ・引き続き大学ポータルに参加する。	A
(10)	情報発信体制の強化	119	大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上	奈良県立大学キャンパスジャーナルを年2回発行する。	A
		120		広報委員会で新たな大学のブランドイメージの構築に向けた戦略的広報の実施について検討する。	A
		121		メディアへの積極的な情報提供等により大学の認知度の向上を図る。	A
		122		県内高校の訪問や模擬講義を実施すること等により、県内高校生の受験者の増加に努める(15の再掲)。	A

#### 注目される取組

○平成29年度計画「危機管理体制を整備する。」に対して、平成30年度から危機管理室を設置することを決定した。(年度連番110)

#### 課題

●平成29年度計画「危機管理計画(防災計画を含む)を策定する。」に対して、基本マニュアルを作成し、個別マニュアルとして、情報セキュリティマニュアルを策定したが、他の個別マニュアルが未策定であったので、今後計画的に策定を進める必要がある。(年度計画109)

奈良県公立大学法人奈良県立大学評価委員会 委員名簿

(敬称略)

氏名	役職等
音田 昌子 (委員長)	ジャーナリスト 奈良県人事委員会委員長 元大阪市公立大学法人評価委員会委員
田村 健吉 (副委員長)	南都ビジネスサービス株式会社 取締役会長 元南都経済研究所理事長
浮舟 邦彦	学校法人 滋慶学園理事長 学校法人 大阪滋慶学園理事長 滋慶学園グループ総長
里見 良子	里見公認会計士事務所 公認会計士 税理士
戸谷 裕之	大阪産業大学経済学部教授 奈良県営水道事業懇談会座長